NO. 2013. 26 号
発行日：2013 年 5 月 20 日

検査のパレット

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の検査について

今回は、新聞等で報道されている重症熱性血小板減少症候群（Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome）の検査依頼が当院でもありましたので、お話します。

SFTS は、ブニヤウイルス科フレボウイルス属に属するウイルスによるダニ媒介性感染症です。SFTS ウイルスを有するマダニに咬まれることにより感染します（潜伏期間は、6 日～2 週間)。また、患者血液や体液との直接接触による感染も報告されています。平成 25 年 3 月 4 日より、SFTS は**四類感染症**に指定されましたので、標準予防策を遵守することが重要です。

●←マダニの大きさ（3～4 ㎜）

症状は、原因不明の発熱、消化器症状(食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛)が中心です。時に頭痛、筋肉痛、神経症状(意識障害、けいれん、昏睡)、リンパ節腫脹、呼吸器症状(咳、咽頭痛)、出血症状(紫斑、下血)などです。**検査所見**は、血小板減少(10 万/mm3 未満)、白血球減少、血清電解質異常(低 Na 血症、低 Ca 血症)、血清酵素異常(AST、ALT、LDH、CK 上昇)、尿検査異常(蛋白尿、血尿)などが見られます。

上記症状、検査所見より、SFTS が疑われる症例がありましたら、以下の検査診断の流れを参考に対応して下さい。

＊ **検査診断の流れ**　（平成 25 年 3 月 26 日　広島市医師会第 362 号より）

患者受診
↓
症状・聞取り状況から、疑い症例と診断した場合は、**血液検体**(下記①)採取し、**保健センターへ連絡**
↓
保健センターが検体受理
↓
広島市衛生研究所を経由し、国立感染症研究所で検査実施
↓
検査結果判明　→　陰性
↓
陽性　→　医療機関へ連絡および保健センターによる積極的疫学調査の実施
↓
医師からの法に基づく届出

＊ **血液検体**　（平成 25 年 2 月 25 日　広島市医師会第 333 号より）

① ウイルス分離・遺伝子検査用
急性期(発症早期)の血液 5 ml（EDTA-2Na もしくは-2K 入り、ヘパリン不可）

② 抗体検査用
急性期と、回復期（発症後 2 週間以上経過した時点）の血清もしくは血漿
＊急性期の検体については、(1)のウイルス分離・遺伝子検査用を使用。

注意：①および②ともに採血後冷蔵庫保存。（冷凍不可）

今後とも検査室をよろしくお願いいたします。

文責：藤谷　恵子　監修：石竹　久仁